

土曜セミナーのご案内

□2013年2月 第61回

日本は、江戸幕府や明治政府が竹島＝独島を朝鮮領と判断したことが何度かありましたが、同島を編入以前に日本領と判断したことは一度たりともありませんでした。その一方、日本の編入前後における韓国の竹島＝独島活用の実態がここ数年の間に次々と明らかにされました。そうした新事実を盛りこんで竹島＝独島問題を解説します。(朴炳渉)

日時：2月2日(土) 14時～16時

テーマ：竹島＝独島問題研究の最前線

講師：朴炳渉 (パク・ビョンソプ、竹島＝独島問題研究ネット代表)

1966年東京教育大学修士課程修了。韓国語学研修を経て日本企業に勤務。『半月城通信』(HP)で「従軍慰安婦」問題や竹島＝独島問題などを発信。著書に『韓末期の鬱陵島・独島漁業』(韓国海洋水産開発院)、『安龍福事件に対する検証』(同)、共著に『竹島＝独島論争』(新幹社)、訳書に『鬱陵島・独島(竹島)歴史研究』(同)などがある。

参加費：1,000円(会員800円、学生500円)

□2013年3月 第62回

朝鮮半島が日本の植民地だった時代、朝鮮半島から大勢の人が日本内地に渡って来て、さまざまな職業に従事しました。そこでは、言葉や生活習慣の違いからくる摩擦や対立がありましたが、同時に人間的な交流や文化の影響もあったとみるべきでしょう。その例として長野県の伊那地方を取り上げ、朝鮮人が暮らすことで現地に残った朝鮮文化の痕跡を考察します。

(高柳俊男)

日時：3月2日(土) 14時～16時

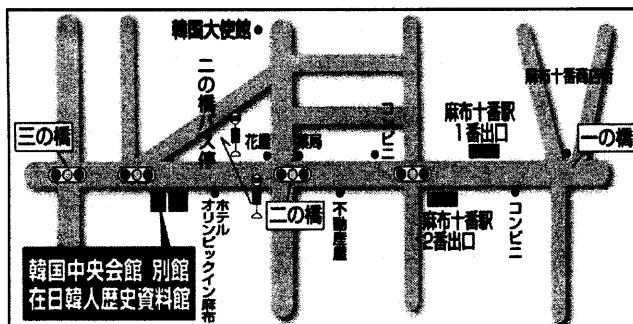
テーマ：日本の農山村に残る朝鮮半島の生活文化
- 長野県・伊那谷から考える -

講師：高柳俊男 (法政大学国際文化学部教授)

1956年生まれ。専門は朝鮮近現代史、在日朝鮮人史。大学1年の時に、NHKに朝鮮語講座を要望する署名運動に出会い、そこに集まった仲間と「鐘声の会」を結成。現在まで読書会活動を継続するとともに『鐘声通信』を月刊で発行している。

参加費：1,000円(会員800円、学生500円)

* 事前に申し込みが必要です。在日韓人歴史資料館まで、電話・FAX・メールのいずれかでご連絡下さい。



The History Museum of J-Koreans
在日韓人歴史資料館・3F 受付

〒106-8585 東京都港区南麻布 1-7-32
TEL 03-3457-1088 FAX 03-3454-4926
URL <http://j-koreans.org>
Mail info@j-koreans.org

地下鉄：東京メトロ南北線・都営大江戸線「麻布十番」駅下車
2番出口から徒歩3分

切り取り.....切り取り

<土曜セミナー申込書>

□ 2月

□ 3月

(会員 / 非会員 / 学生)

お名前

Mail

ご住所 〒

電話・FAX